

2016年9月期 第3四半期 決算説明資料

2016年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)
<http://www.fgi.co.jp/>

2016年9月期 第3四半期 業績（連結）

(単位：百万円)	2015年9月期 第3四半期 (A)	2016年9月期 第3四半期 (B)	前年同期比 (B)-(A)	2015年9月期 通期実績	2016年9月期 通期業績予想
売上高	3,445	4,954	1,508	5,429	7,700
売上総利益	1,379	1,126	△253	2,495	—
営業利益	△281	△851	△569	115	230
経常利益	△100	△1,096	△995	237	180
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△87	△1,082	△994	224	170

📌 業績概要 事業総括

ポイント①⇒PJの「保有」「開発」に投資 売却活動は1Qに成果を上げるも、伸び悩む 企業投資回収は限定的

- ・太陽光発電所への投資ニーズは継続 プロジェクト（PJ）獲得競争激化
- ・PJ確保と利益の最大化のため、「アレンジ」「保有」に加え、2Qより「開発」を開始
- ・1QはPJ保有・売却（売上高980百万円）により売上伸長するも、2Q、3Qは伸び悩む
- ・人員増強、メッツァ事業における中長期で必要な戦略的投資を執行し、販管費増加

ポイント②⇒不動産事業は収益性改善

- ・営業所の統廃合等によりコスト削減 住宅販売等の増加により、黒字化
- ・不動産賃貸会社の全株式取得、子会社化

ポイント③⇒メッツァは事業構想、基本計画策定が終わり、基本設計ステージへ移行 (メッツァ＝北欧との雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設)

- ・2016年中に開業時期をお知らせする予定
- ・埼玉県飯能市における観光事業の受託などにより、メッツァと一体化した地域振興を推進

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

通期業績予想について

第3四半期までの業績進捗は遅れているものの、期末に向けてクローズを予定している案件取組み状況を鑑み、通期業績予想の修正はいたしません。

① 太陽光発電PJ取得案件の売却

- ・ 3Q末の太陽光発電PJに係る販売用不動産、仕掛販売用不動産の合計額は990百万円 ⇒ 売却、収益化（仕掛販売用不動産は、開発のための追加投資により増加予定）
上記に加え、今後予定するアレンジ案件、保有・売却予定の発電所PJ等により、今期中の収益計上を企図

（取組案件増加及び収益化への取組み）

- ・ 案件精査のための外部リソースの活用や案件デューデリの効率化により、取組案件数を増加
案件管理の徹底によるクローズ確度向上を狙う
- ・ 発電PJへの投資家招聘ルートの更なる拡大

② サ高住等の不動産案件のアレンジ、AM受託、エグジット等

- ・ サ高住のアレンジ等の新規受託や、既存アセットマネジメント（AM）案件のエグジット等を見込む
その他、既投資案件の流動化による利益計上も検討

③ 不動産事業の採算改善

- ・ 営業力強化と経費見直しにより、当第3四半期に営業黒字化 戸建住宅販売を中心に収益力強化

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント別業績

【売上高はセグメント間取引を含む。】

	(単位：百万円)	2015年9月期 第3四半期	2016年9月期 第3四半期	前年同期比	主な連結会社
1	投資銀行事業	売上高 785 営業利益 542	1,387 274	602 △267	当社(FGI)、フィンテックアセットマネジメント(FAM) フィンテックグローバルトレーディング(FGT)(注)
2	不動産事業	売上高 2,213 営業利益 △45	3,557 37	1,343 83	ベターライフサポートホールディングス、ヘルス、 ユニハウス、ベターライフハウス、ベターライフプロパティ (注)
3	その他	売上高 34 営業利益 △74	17 △84	△17 △10	ムーミン物語、アダコテック (注)
	(建設事業)	売上高 423 営業利益 △0	- -	△423 0	パブリック・マネジメント・コンサルティング (2015/9期1Qまで連結) 岡山建設 (2015/9期2Qまで連結)
	調整額	売上高 △11 営業利益 △704	△7 △1,078	3 △374	
	連結P L計上額	売上高 3,445 営業利益 △281	4,954 △851	1,508 △569	

(注) FGT、ムーミン物語、アダコテックは2015年9月期第2四半期より、ベターライフプロパティは2016年9月期第3四半期より連結。

1 優良プロジェクトの獲得競争と投資家ニーズに機動的に対応すべく、アレンジメント業務受託と並行して、優良プロジェクトを確保した上で、投資家に紹介・売却する施策を推進。プロジェクトの開発段階からの確保も開始。

2 メッツァ事業は、当社内に専任の「メッツァ事業準備室」を設置。事業構想、基本計画の策定とその検証に目処をつけ、基本設計に入る。地元自治体 飯能市の観光事業の実証実験として、施設運營業務を受託。メッツァと一体化した地域振興推進。

3 「不動産事業のeコマース化」を推進。
戸建住宅販売は4-6月の売上好調。営業所統廃合で一時的費用が発生も、経費見直しにより販管費は減少し、採算改善。営業黒字化。
新築マンション市況の低迷の影響で、不動産紹介売上は減少。
販売進捗により、不動産事業における販売用不動産、仕掛販売用不動産の合計額は2,151百万円（前期末比11.9%減）。

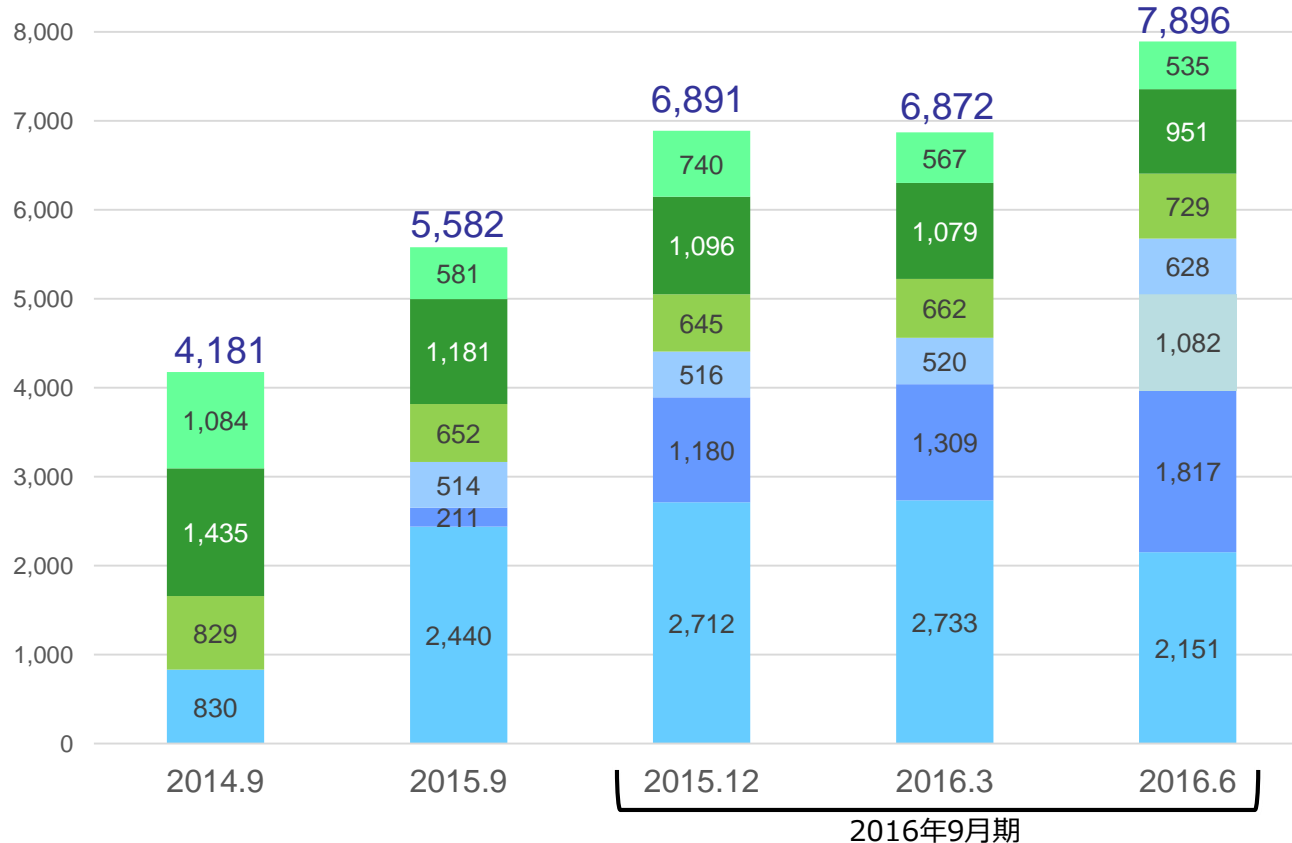
ムーミン物語は、FGIのメッツァ事業準備室と連携し、メッツァ事業計画の策定、検討。飯能市ふるさと納税返礼品としてムーミン関連グッズの供給を開始。
アダコテックは、IoT関連のデータ解析・予兆検知とIPカメラへの組込検知システムについて、それぞれ大手企業とビジネス推進。社会インフラ系企業から多くの引合いを受ける。

投融资の推移（連結）

2016年9月期第3四半期（2015年10月～2016年6月）の主な変動要因（総額は41.5%増）

- ・プリンシパルインベストメント いくつかの案件で投資回収 “フィンテック”企業への投資は増加
- ・固定資産(不動産賃貸) ベターライフプロパティの子会社化による賃貸用不動産
- ・販売用不動産(投資銀行事業) 太陽光発電所(開発中を含む)、セルフストレージの取得により増加
- ・販売用不動産(ベターライフサポート事業) 戸建住宅の販売が進み、減少

(単位：百万円)



- プリンシパルインベストメント (当社グループによる投資)
- ベンチャーキャピタルファンド (FinTech GIMV Fundへの投資)
- 企業融資
- 固定資産 (メツツア事業)
- 固定資産 (ベターライフサポート=不動産賃貸)
- 販売用不動産(投資銀行事業)
- 販売用不動産 (ベターライフサポート事業)

(注)

・プリンシパルインベストメントは、ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額であります。

・企業融資は、全額引当している債権を除いて記載しております。

・販売用不動産は、仕掛販売用不動産を含めて記載しております。

F G I 投資先企業の状況（抜粋）

フィンテック グローバル（F G I）の主な投資先企業の現況は下記のとおりです。

連結子会社については、P3「セグメント別業績」、P15「グループ各社 単体業績の推移」をご覧ください。



(株)虎ノ門ハム（非連結子会社）

米国最大級のハムブランドを擁するThe HoneyBaked Ham Companyより、日本におけるHoneyBaked(ハニーベイクド)ブランドを使った各種事業における独占的営業ライセンスを保有。ネット直販、デパート等の小売店を通じて販売。2015年8月には東京都港区に第1号店舗を開設。



みらいエネルギー・パートナーズ(株)

国内水力発電事業者が所有する中規模水力発電所の共同改修事業（エンパワメント事業）を行う。事業者と共同で設立するSPCにより、発電資産を取得し、国内外投資家の資金を活用しながら投融資を行うスキームによる発電事業者と一体となったFIT事業を推進。

2015年3月、中小水力発電所に投資する「みらい hidro パワー投資事業有限責任組合」を設立。



アクシスモーション(株)

2014年より提供を開始した空室対策・建物管理の業務支援サービス「PMアシスト」は、大手を含む不動産管理会社50社が登録（2016年6月末）、導入実績を拡大中。2016年に(株)朝日新聞社と業務・資本提携し、朝日新聞サービスアンカーによる不動産管理会社のサポートを開始。

F G T 投資先企業の状況（抜粋）

フィンテックグローバルトレーディング（F G T）の主な投資先企業の現況は下記のとおりです。



(株)アイデアクエスト

非接触・無拘束ベッド見守りシステム「OWLSIGHT福祉用」や、成人・新生児を対象とする呼吸機能診断装置などの製品開発を専門とする、慶應義塾大学発のベンチャー企業。
経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業の対象に認定される等、先進的地位を確保。
「OWLSIGHT福祉用」を2015年10月より、販売開始。



ジャパン・トゥエンティワン(株)

イスラエルのハイテクベンチャー企業の先進テクノロジーの日本への導入及び市場開発を行う。
高度運転支援システムのリーディングカンパニーであるMobileye社の後付け衝突防止システムや、
コンピューター盗難防止ソリューションのリーディングメーカーであるCompulocks社商品のマスターディストリビューター等、数多くのイスラエル発先進的ハイテック商品の取扱実績を持つ。

Queen Bee Capital(株)

財務省関東財務局長の許可を得た資金移動事業者。インターネットによる通貨両替・海外送金サービス「PayForex」や国際間取引の決済収納を一括管理するサービス「PayeeLink」を運営・展開するフィンテックベンチャー企業。
拡張性の高い独自のシステムと各国現地銀行との提携関係の構築等を通じ、安全性を確保しながら、従来の銀行よりも早く・安く利便性の高い通貨両替・海外送金サービスを提供。



F G F 投資先企業の状況（抜粋）

FinTech GIMV Fund(F G F)は当社、日本政策投資銀行、GIMV(ベルギーの投資会社) がリードインベスターとしてライフサイエンス及びICT分野に投資するベンチャーキャピタルファンドです。主な投資先企業の現況は下記の通りです。



SFJ Pharmaceuticals Inc.

パートナー製薬企業に革新的な資金調達アプローチを提供しており、エーザイ(株)やファイザーといった大手製薬企業と有望な新薬候補品の共同開発契約を締結。エーザイ(株)との抗がん剤の共同開発は、当該抗がん剤が甲状腺がんに係る適応で各国で承認を取得し、2015年、成功裏に完了。現在、複数の抗がん剤開発のプロジェクトにおいて、第Ⅲ相治験が進行中。



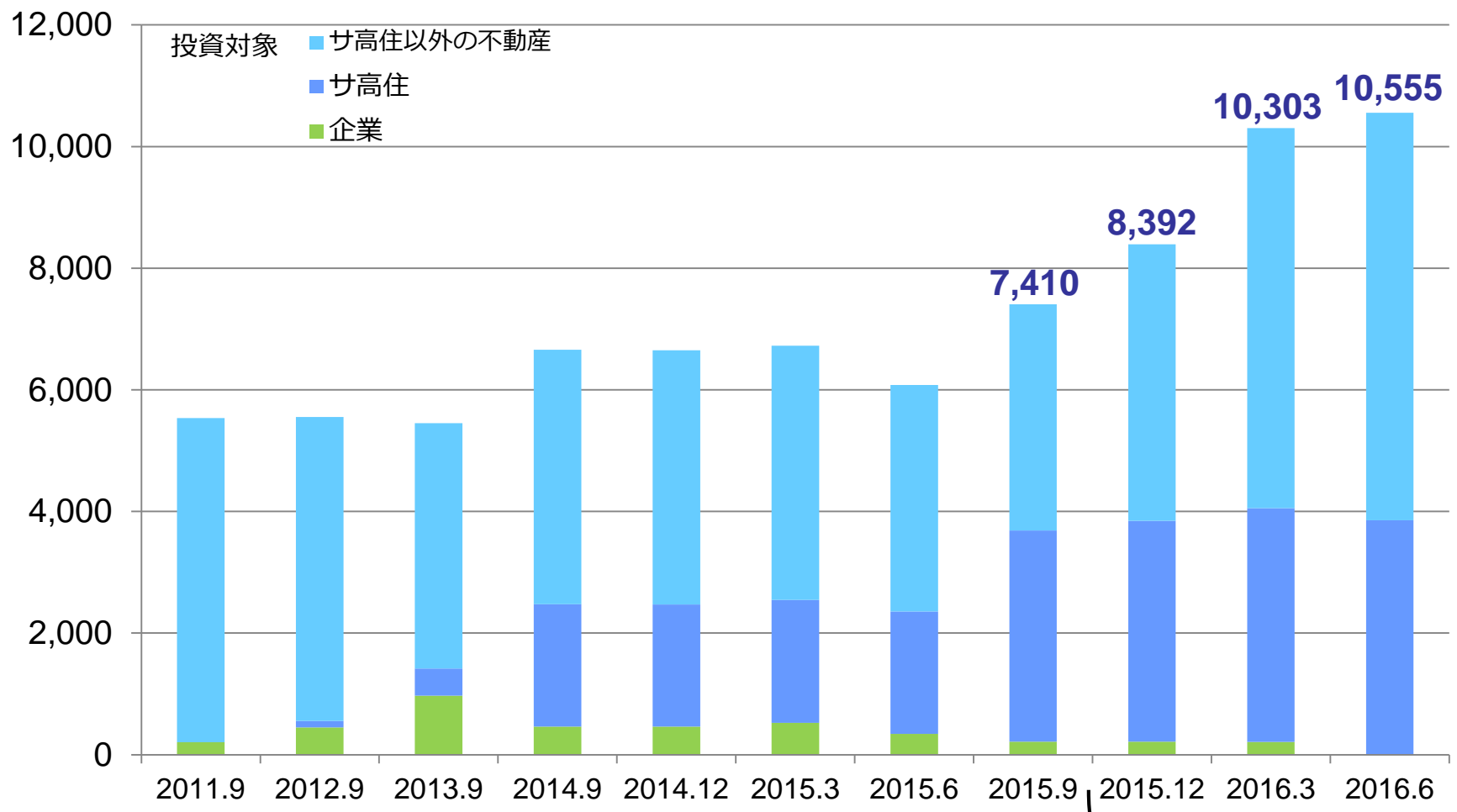
Histogenics Corporation

スポーツ・事故等による膝軟骨損傷に対して、新生関節軟骨移植の再生医療ビジネスを展開する企業。2014年12月、米国NASDAQ市場に上場 (Nasdaq:HSGX)。現在、候補薬の第Ⅲ相治験が進行中。

フィンテックアセットマネジメントの受託資産残高（AUM）の推移

2016年9月期は、地方都市の複合施設、都心部の集合住宅のアセットマネジメントを新規受託。第3四半期末は前期末比42.4%増。

(百万円)



連結貸借対照表

資産の部

	15年9月期	16年9月期 第3四半期	増減
流動資産	10,507,445	7,959,466	△ 2,547,978
現金及び預金	4,617,855	1,553,425	△ 3,064,429
受取手形・売掛金	237,393	64,185	△ 173,207
1 営業投資有価証券	1,565,930	1,356,674	△ 209,255
営業貸付金	761,902	793,762	31,860
2 販売用不動産	1,515,740	2,080,760	565,019
3 仕掛販売用不動産	1,135,958	1,887,590	751,631
繰延税金資産	4,342	6,711	2,368
その他	870,335	393,769	△ 476,566
貸倒引当金	△ 202,015	△ 177,412	24,602
固定資産	1,450,659	2,843,115	1,392,456
4 有形固定資産	841,025	2,324,752	1,483,726
無形固定資産	129,704	103,270	△ 26,434
1 投資その他の資産	479,929	415,093	△ 64,836
資産合計	11,958,104	10,802,582	△ 1,155,522

- 1 "フィンテック"関連企業等へ新規投資を実行
・持分売却、ファンド出資回収により残高減少
- 2 戸建住宅等は販売進捗により減少
・太陽光発電所は売却後、新規取得により増加
・セルフストレージは新規取得により増加
- 3 積極的な用地取得により戸建住宅の開発PJ増加
・太陽光発電所開発PJの開始により増加
・セルフストレージの用地取得、開発進行により増加
- 4 メツツア事業用地の追加取得、賃貸不動産会社の子会社化による
不動産増加

負債の部

(単位：千円)

	15年9月期	16年9月期 第3四半期	増減
流動負債	3,109,925	2,221,910	△ 888,014
支払手形・買掛金	41,639	3,834	△ 37,805
短期借入金	2,372,557	1,669,876	△ 702,681
1年内償還予定の社債	46,000	38,000	△ 8,000
1年内返済予定の長期借入金	163,284	208,102	44,818
未払法人税等	41,396	10,326	△ 31,069
賞与引当金	42,466	30,697	△ 11,769
その他	402,581	261,074	△ 141,506
固定負債	968,294	1,954,272	985,977
社債	98,000	75,000	△ 23,000
長期借入金	691,779	1,583,295	891,516
退職給付に係る負債	105,646	103,869	△ 1,777
繰延税金負債	37,606	146,512	108,905
その他	35,261	45,595	10,333
負債合計	4,078,219	4,176,182	97,963

純資産の部

	15年9月期	16年9月期 第3四半期	増減
株主資本	7,940,881	6,757,674	△ 1,183,207
資本金	4,548,138	4,548,582	444
資本剰余金	2,125,950	2,122,181	△ 3,769
利益剰余金	1,266,792	86,909	△ 1,179,883
その他の包括利益累計額	△ 118,455	△ 185,877	△ 67,422
新株予約権	16,729	29,028	12,299
非支配株主持分	40,728	25,574	△ 15,153
純資産合計	7,879,885	6,626,399	△ 1,253,485
負債純資産合計	11,958,104	10,802,582	△ 1,155,522

連結損益計算書

		2015年9月期 第3四半期	2016年9月期 第3四半期	(単位：千円) 増減
売上高	1	3,445,881	4,954,260	1,508,378
売上原価		2,066,561	3,827,978	1,761,416
売上総利益		1,379,319	1,126,282	△ 253,037
販売費及び一般管理費	2	1,660,978	1,977,283	316,305
営業損失(△)		△ 281,658	△ 851,001	△ 569,343
営業外収益		210,734	25,613	△ 185,120
営業外費用		29,677	3 270,915	241,238
経常損失(△)		△ 100,601	△ 1,096,303	△ 995,702
特別利益		23,930	1,415	△ 22,514
特別損失		2,280	6,943	4,663
税金等調整前四半期純損失(△)		△ 78,951	△ 1,101,831	△ 1,022,880
法人税等		18,359	△ 211	△ 18,570
四半期純損失(△)		△ 97,310	△ 1,101,620	△ 1,004,309
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)		△ 9,327	△ 18,884	△ 9,556
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)		△ 87,982	△ 1,082,735	△ 994,752

1 ・太陽光発電設備等の取得・売却、戸建住宅の販売増により、売上高、売上原価とも、大幅に増加

2 ・投資銀行事業（メッツァ事業を含む）の人員補強により、人件費が増加
 ・メッツァ事業の先行投資により支払手数料等が増加

3 ・為替差損190百万円を計上

参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結業績の推移（6期分）
- グループ各社 単体業績の推移

個別貸借対照表

資産の部

	15年9月期	16年9月期 第3四半期	増減
流動資産	8,092,919	5,866,687	△ 2,226,232
現金及び預金	4,178,000	859,681	△ 3,318,319
売掛金	160,300	17,113	△ 143,186
営業投資有価証券	1,505,339	1,110,575	△ 394,763
営業貸付金	782,862	846,422	63,560
短期貸付金	924,050	2,064,251	1,140,201
販売用不動産	—	818,036	818,036
仕掛販売用不動産	—	172,144	172,144
その他	789,108	240,555	△ 548,552
貸倒引当金	△ 246,741	△ 262,093	△ 15,352
固定資産	1,579,563	1,856,442	276,879
有形固定資産	613,387	720,461	107,074
無形固定資産	9,034	19,266	10,231
投資その他の資産	957,141	1,116,714	159,573
資産合計	9,672,483	7,723,130	△ 1,949,353

負債の部

(単位：千円)

	15年9月期	16年9月期 第3四半期	増減
流動負債	1,559,865	662,128	△ 897,737
買掛金	35,451	1,620	△ 33,831
短期借入金	1,220,500	480,401	△ 740,099
1年内返済予定の長期借入金	17,268	37,248	19,980
未払金	166,592	43,281	△ 123,311
預り金	31,463	23,316	△ 8,146
前受金	2,978	31,742	28,763
賞与引当金	30,703	23,774	△ 6,929
その他	54,908	20,744	△ 34,164
固定負債	266,403	420,483	154,079
長期借入金	138,929	312,778	173,849
退職給付引当金	73,329	73,443	114
その他	54,145	34,262	△ 19,883
負債合計	1,826,269	1,082,612	△ 743,657

純資産の部

株主資本	7,948,398	6,797,366	△ 1,151,031
資本金	4,548,138	4,548,582	444
資本剰余金	2,113,361	2,113,805	444
利益剰余金	1,286,898	134,978	△ 1,151,920
評価・換算差額等	△ 118,914	△ 185,877	△ 66,963
新株予約権	16,729	29,028	12,299
純資産合計	7,846,213	6,640,517	△ 1,205,695
負債純資産合計	9,672,483	7,723,130	△ 1,949,353

個別損益計算書

(単位：千円)

	2015年9月期 第3四半期	2016年9月期 第3四半期	増減
売上高	648,730	1,311,125	662,395
売上原価	163,656	1,038,980	875,323
売上総利益	485,073	272,145	△ 212,928
販売費及び一般管理費	787,422	1,127,855	340,433
営業損失 (△)	△ 302,348	△ 855,709	△ 553,361
営業外収益	233,719	66,414	△ 167,305
営業外費用	52,262	275,065	222,802
経常損失 (△)	△ 120,891	△ 1,064,360	△ 943,468
特別利益	269,903	1,165	△ 268,737
特別損失	10,930	6,817	△ 4,113
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失 (△)	138,081	△ 1,070,012	△ 1,208,093
法人税等	△ 24,699	△ 15,239	9,460
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	162,780	△ 1,054,772	△ 1,217,553

連結業績の推移

決算年月		2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年 9月期	2016年9月期 第3四半期
売上高	(百万円)	6,988	2,038	1,603	3,911	5,429	4,954
売上総利益	(百万円)	3,509	908	1,468	2,398	2,495	1,126
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	1,220	△ 915	88	684	237	△ 1,096
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	1,404	△ 1,274	182	923	224	△ 1,082
純資産額	(百万円)	4,870	3,632	2,716	5,534	7,879	6,626
総資産額	(百万円)	7,682	6,417	4,770	7,452	11,958	10,802
1株当たり純資産額	(円)	31.52	19.82	22.23	37.41	48.31	40.59
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	11.69	△ 10.70	1.52	6.92	1.48	△ 6.69
潜在株式調整後							
1株当たり当期純利益金額	(円)	11.68	—	1.52	6.89	1.47	—
自己資本比率	(%)	48.9	36.8	56.4	73.9	65.4	60.8
自己資本利益率	(%)	45.3	△ 41.7	7.2	22.5	3.4	—
株価収益率	(倍)	2.6	—	21.9	9.2	84.7	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,953	959	△ 464	△ 2,208	△ 1,791	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 631	80	85	509	△ 644	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 413	△ 233	△ 128	2,065	4,761	—
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	1,711	2,522	1,644	2,024	4,612	—
従業員数(連結)							
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	70 (17)	60(19)	51(13)	109(7)	117(8)	113(18)
従業員数(単体)							
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	15 (2)	20(3)	26(3)	24(3)	38(3)	45(7)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2011年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

グループ各社 単体業績の推移

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	3Q
売上高	1,310	313	1,623	531	932	1,464	1,311
売上総利益	1,178	188	1,367	376	895	1,271	272
経常利益	790	△ 219	571	28	274	303	△ 1,064

セグメント：投資銀行事業

フィンテック アセット マネジメント	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	3Q
売上高	179	86	265	30	55	85	69
売上総利益	179	80	260	30	55	85	66
経常利益	105	21	126	△1	26	25	10

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル トレーディング	2015年9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	3Q
売上高	171	107
売上総利益	160	90
経常利益	95	29

2015年1月より連結

セグメント：その他

ムーミン物語	2015年 9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	3Q
売上高	0	0
売上総利益	0	△ 0
経常利益	△ 95	△ 80

セグメント：その他

アダコテック	2015年 9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	3Q
売上高	19	14
売上総利益	19	14
経常利益	△ 2	△ 5

セグメント：不動産事業

ヘルス	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	3Q
売上高	209	233	442	204	359	564	375
売上総利益	169	192	362	136	294	431	234
経常利益	△ 9	13	3	△ 44	35	△ 9	△ 35

2015年9月期は決算期変更のため、15ヶ月決算（下半期は9ヶ月）

セグメント：不動産事業

ユニハウス	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期	城南開発	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期
	下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	3Q		下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	3Q
売上高	39	221	205	426	242	売上高	152	12	1	14	-
売上総利益	39	221	205	426	242	売上総利益	152	12	1	14	-
経常利益	△ 63	△ 22	△ 50	△ 72	△ 6	経常利益	23	△ 3	△ 10	△ 14	△ 4

2014年4月より連結

2014年6月、ユニハウスホールディングスが城南開発(旧ユニハウス)より事業譲渡(商号譲渡を含む)を受け、商号をユニハウスとしております。

2014年4月より連結 2015年9月解散

2014年6月30日、ユニハウスから城南開発に商号変更しております。

セグメント：不動産事業

ベターライフ ハウス	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期	スリーオーク	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期
	下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	3Q		下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	上半期
売上高	20	670	1,400	2,071	2,962	売上高	321	239	173	412	-
売上総利益	17	56	89	146	252	売上総利益	30	8	8	16	-
経常利益	△ 11	△ 12	△ 27	△ 40	29	経常利益	8	6	2	9	11

2014年4月より連結

2014年4月より連結 2015年9月解散 2016年2月清算終了

セグメント：不動産事業

ベターライフ プロパティ	2016年 9月期
	3Q (16年4月～6月)
売上高	41
売上総利益	41
経常利益	△ 3

単位：百万円

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2016年9月期第3四半期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」といいます）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。